



# 画家の書棚にみる 昭和アート・ブック史

宮本三郎文庫より



2008年12月6日[土]→2009年3月22日[日]

開館時間＝10:00～18:00(入館は17:30まで)

休館日＝毎週月曜日(ただし休日と重なった場合は翌日)、年末年始(12月29日～1月3日)

観覧料＝一般200円(160円)、大高生150円(120円)、中小生100円(80円)、65歳以上及び障害者の方100円(80円)

※( )内は20名以上の団体料金。小・中学生は土・日・祝日無料。

※障害者で小・中・高・大学生、および障害者の介護者(当該障害者一人につき、一人に限る)は無料。



世田谷美術館分館 宮本三郎記念美術館





# 画家の書棚にみる 昭和アート・ブック史 宮本三郎 文庫より

宮本三郎が生前に所有していた五千冊にもおよぶ書籍の数々「宮本三郎文庫」をまとめて初公開致します。

宮本三郎が過ごした奥沢の邸宅には、彼が装丁を担当した獅子文六や大佛次郎、そして石坂洋次郎らの大衆小説や、表紙を担当した『主婦之友』や『新女苑』といった当時の女性誌をはじめ、美術書や美術雑誌の数々、作品を描く際に参考にしただろう無数の写真集、自らの子どものための児童書、滞欧時に購入したと思しき洋書など無数の書籍が遺されていました。遺族の没後に作品とともに世田谷区に寄贈されたこれらの貴重な書籍の数々は、宮本三郎の思考と創作の源泉や公私にわたる様々な関心を明らかにするのみならず、当時の著名な装丁家や写真家、そして美術家による昭和のブック・デザインを概観するための貴重な機会となるはずです。

本展は、様々なテーマを設けて宮本三郎の蔵書をセレクトし、同時期に制作された絵画作品とあわせて展示することによって、あらゆる視点から昭和を代表する洋画家 ひいてはその時代そのものを読み解こうとするものです



装丁および表紙画——1.大佛次郎『風船』2.獅子文六『おじいさん』1949年 3.内村直也『うちのおばあちゃん』1953年 4.田村泰次郎『今日われ歌情す』1948年 5.石坂洋次郎『暁の合唱』前編・後編 1948年 6.吉川栄治『新書 太閤記』1955年 7.『主婦之友』1952年11月号 8.『新女苑』1954年2月号 蔵書——9.『みづる』1932年1月号 10.『洋酒天国』第1号 1956年4月 11.村川彌五郎・編『感覚 SENSE』1948年 12.エリュアール・ブルトン・編『シュルレアリスム辞典』1958年 13.板垣麿徳『機械と藝術との交流』1929年 14.岡本太郎『母の手紙』1941年 15.辻惟雄『奇想の系譜』1970年 16.木村伊兵衛『外遊写真集』1955年



絵画作品——A.兵士 1944(昭和19)年 B.長崎風景 1960(昭和35)年 C.おどりこ 1962~64(昭和37~39)年頃 D.静物 壺 花 コップ 1961(昭和36)年頃

多彩な書籍に関するワークショップを随時開催予定！ 詳しくは当館ホームページをご覧ください。



世田谷美術館分館

宮本三郎記念美術館

## 本館情報

### 世田谷美術館

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2 TEL 03(3415)6011(代)

### 企画展 『山口薫展 都市と田園のはざままで』

2008年11月3日(月祝)→12月23日(火祝)

### 『十二の旅:感性と経験のイギリス美術』

2009年1月10日(土)→3月1日(日)

### 特別展『平泉〜みちのくの浄土〜』

2009年3月14日(土)→4月19日(日)

### 収蔵品展『難波田史男展』

2008年12月12日(金)→2009年2月27日(金)

## 分館情報

2008年12月6日(土)→2009年3月22日(日)

### 向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03(5450)9581  
www.mukaijunkichi-annex.jp

### 『向井潤吉 生きている民家——描かれた生活の息吹』

### 清川泰次記念ギャラリー

〒157-0066 世田谷区成城2-22-17 TEL 03(3416)1202  
www.kiyokawataiji-annex.jp

### 『旅とカメラ——清川泰次が写した昭和日本紀行』

【交通のご案内】=東急大井町線・東横線「自由が丘」駅(徒歩7分) ◎東急大井町線「九品仏」駅(徒歩8分) ◎東急目黒線「奥沢」駅(徒歩8分)  
【お問合せ】=〒158-0083 東京都世田谷区奥沢5-38-13 TEL 03(5483)3836 www.miyamotosaburo-annex.jp